

いちのみやの芸術文化

- 特集「一宮市の古代寺院・長福寺廃寺」
- 加入団体の紹介
- これからの催し

長福寺廃寺

一宮市長 森 拓太郎

長福寺廃寺石碑

2015.3

第32号

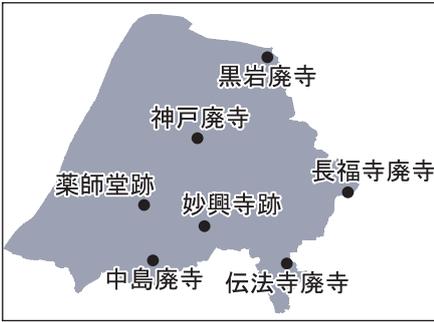
一宮市芸術文化協会

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

『一宮市の古代寺院・長福寺廃寺』

■一宮市域の古代寺院

一宮市域には、飛鳥・奈良時代に造営された古代寺院の跡が七ヶ所あります。千秋町加納馬場にある長福寺廃寺、丹陽町伝法寺にある伝法寺廃寺、浅井町黒岩にある黒岩廃寺、今伊勢町本神戸にある神戸廃寺、大和町妙興寺にある妙興寺跡、大和町苅安賀にある薬師堂跡、萩原町中島にある中島廃寺です。現在、これらの寺院跡には字名として、その名残をとどめているものもありません。今回は、市域で最も早く造営された長福寺廃寺を取り上げます。ここは尾張平野でも、名



▲市域の古代寺院跡

古屋市中区の尾張元興寺について2番目に古い寺院となります。

■長福寺廃寺

市内の東部、千秋町加納馬場字長福寺には、その字名のとおり古くから寺跡が存在したとされてきました。名鉄犬山線東側に遺跡公園があり、「長福寺廃寺」とかかれた石碑(表紙)が建てられています。付近一



▲長福寺廃寺位置図

帯がかつての寺跡と考えられています。

昭和14年(1939)、京都の仏教美術史学者の田中重久氏(たなかしげひさ)によって調査が行われ、更に昭和45年には保存を目的とした調査が市教育委員会によって行われました。付近の畑からは、金銅天部立像(写真↑)といった金銅製の仏像や多量の丸瓦・平



▲(写真1)金銅天部立像(個人蔵)



▲(写真2)塔心礎(法光寺蔵)

瓦が発見されています。加納馬場にある法光寺の庭には、長福寺跡から出土したといわれる塔の心柱の礎石、塔心礎(写真2)があり、現在でもその大きさを想像することが出来ます。

■瓦を読む

現在の瓦屋根は椀瓦で葺かれています。椀瓦を使うようになったのは江戸時代のことです。それまでは、古代から続く丸瓦と平瓦を組み合わせた本瓦葺の屋根でした。さて、この地から出土した軒丸瓦・軒平瓦(写真3)を調べてみると、長福寺廃寺の造営は、七世紀後半の飛鳥時代後期と考えられます。



▲軒丸瓦

▲軒平瓦

(写真3)長福寺廃寺出土瓦

瓦作りの技術の始まりは中国にあり、朝鮮半島を経て、六世紀に仏教の伝来とともに日本へ伝わりました。当時、瓦は寺院や役所といった特別な建物にしか使われませんでした。つまり、瓦が出土する場所は、かつて寺院や役所が存在していた場所であるということになります。

飛鳥・奈良時代の瓦は、軒瓦の文様から時期を判断することができます。また他の古代寺院から出土した瓦の文様と比較することによって、その寺院との関係性を考えることも可能になります。例えば、同じ文様の軒瓦が出土した場合、同じ型を使った可能性があり、型の傷の有無から二つの古代寺院の造営時期の新旧、及び関連を考えることもできます。

長福寺廃寺の場合、名古屋市尾張元興寺から出土した瓦や、稲沢市の東畑廃寺から出土した瓦と文様が近似し、これら寺院との関係が想定できます。

■長福寺廃寺の立地

市域は昔から洪水の多い地域であり、発掘調査を行うと、洪水によって遺跡が消滅している痕跡がしばしば見られます。しかし、市域の大半の古代寺院は微高地上に立

地していることがわかっており、あらかじめ洪水を避けて造られていたようです。また、市域以外の尾張地域の古代寺院をみても、古い段階に造営されたと考えられる寺院は、比較的高い場所を選んで建てられています。

一方で、長福寺廃寺は造営されるにあたり、高さより場所が重要視されていた可能性があります。その造営場所は犬山扇状地の端で五条川が流れ出る境界の地が選ばれています。背後に扇状地形をもち、低地への水源となるいわゆる「川合の地」に建てられているのです。

■おわりに

長福寺廃寺については、過去に二度の発掘調査が行われましたが、伽藍配置や寺院の範囲など、具体的なことはまだわかっていません。今後の研究・調査によって、少しでもその姿を解明できればと思います。

(一宮市博物館 学芸員 松本 彩)

◆参考文献

澄田正一編1974『新編一宮市史 資料編四 古墳時代・古代』
 梶原義美2012『尾張地域における古代寺院の動向』
 『東海の古代③ 尾張・三河の古墳と古代社会』同成社
 梶原義美2012『一宮の古代』
 『博物館講座・尾張平野をかたる17 一宮の歴史と文化』
 『一宮を語る』

日本に古くから伝わる「能・狂言」で使われる面。私達は面が作り出す幽玄の世界に魅せられ、「面打ち」を趣味とした同好者の集まりです。

「一面会」は長年、県労働協会の文化学園・面打ち教室として活動してきましたが、平成24年からは自主サークルを作り、以前より活発に活動しています。

面を作ることを「面を打つ」と言い、古来伝わる面を忠実に写しながら、そこに生命を吹き込むことが大切で、皆真剣に取り組んでいます。面にも穏やかな面、厳しい面、激しい面と多種多様な面があります。同じ面を手本にして作成しても、出来上がった作品には愛情が滲み出た、味わい深いオンリー・ワンの作品が出来上がります。こんな楽しみを私達と一緒に体験してみませんか。

作品発表の場としては年一回、作品展を開催しています。昨年は、玉堂記念木曾川図書館に

て「第30回」となる節目の作品展を、一宮市芸術祭参加事業として開催しました。

中村義人氏を講師に迎え、毎月第2・4土曜日の午前・午後の二班に分かれて、25名が活動しています。4月からの活動場所はアイプラザ一宮を予定しています。ぜひ一度足を運んでみてください。



◀面打ち教室にて

【問合せ先】 不破 均 ☎44-6493

私達は、平成4年に旧尾西市文化会館(尾西生涯学習センター西館)にて開催された花道「石田流いけばな講座」の受講生で、講座終了後も継続したいとの希望により、翌年の1月から「らんの会」として発足しました。

講座でお世話になった市川咲翠先生に、引き続きご指導いただき、今年で22年目を迎え、現在は「尾西花紘会」として活動しています。活動の発表の場としては、11月に尾西市民会館で行われる尾西華道展・お茶会に出品しています。

先人たちは「花は足で生けよ」と言い、千利休も「花は野にあるように…」とその扱いには細心の注意を払っていたことがわかります。また、花道は室町時代に生まれて以来、日本の四季をより身近なものにしてくれました。今ではどこのご家庭でも、色々な行事の際には花を手にして、その時々季節感を感じることができます。「気負わない心で」という気持ちが、花を生ける時

には何より大切でしょう。

会員の中には22年間の活動期間中にお孫さんが出来た方もおり、人の輪を広げながらお稽古を楽しんでいます。お部屋に一輪お花があるだけで、不思議と心が温かくなります。お花と遊んでみませんか。今は第4月曜日の午前に尾西生涯学習センターで活動しています。お待ちしております。



◀お花に癒されて

【問合せ先】 不破 紘治 ☎62-0864

「津軽三味線恋糸」は三味線が好きな人たちが集まった団体で、平成元年に発足しました。当初会員は少人数で、活動場所も名古屋市が中心でしたが、平成5年ごろから一宮市に活動拠点を移し、大所帯ではありませんが、会員皆で仲良く活動をしています。

現在は、全日本津軽三味線競技会で三味線フリークスという団体のメンバーとして優勝され、素晴らしいご活躍をされている三野友記子先生を会主とし、ご指導をいただき稽古に励んでいます。

発表の場として、一宮七夕まつりに毎年出演させていただいています。他にも地域のイベントに参加したり、老人ホームなどへ慰問したりしています。また、普及活動として小学校で三味線、鳴子、太鼓などの和楽器の体験学習指導を15年程続けています。子どもたちが普段はあまり触れる機会の少ない和楽器を、楽しそうに

演奏する姿を見ることにより、自然と笑顔がこぼれ、次の活動への原動力にもなっています。

これからは民謡だけでなく、色々なジャンルに取り組み、いつまでも心に残る強さと優しさを表現出来る演奏を目指し、努力していきたいと思います。普段は会主のご自宅で練習しています。興味のある方、ぜひ一緒に楽しく三味線を弾いてみませんか。



老人施設での慰問演奏

【問合せ先】大原 和代 ☎45-0726

昭和60年、初心者を対象に開かれた俳句教室が発展し、「尾西仏手柑句会」となりました。

活動は、毎月の例会を会場である応蓮寺で、第2日曜日の午後2時より開催しています。題詠一句と雑詠二句を事前に投句し、当日に互選、主宰が選評します。翌日には、その結果を会員の毛筆によって、会場前の掲示板に発表したり、中日新聞の尾張文芸欄に送ってもいます。時には吟行をしに、伊賀上野の「俳聖殿」や大垣市の「奥の細道結びの地」などへも出かけます。

また、正月には年間秀句抄を年賀はがきとして選者吟と共に出すという、会独特で珍しいことが恒例になっています。

本年1月12日からの一週間、これまでの活動の集大成として尾西歴史民俗資料館にて、尾西仏手柑句会30周年記「仏手柑」句会回顧展を行いました。俳句好きな仲間たちが、約30年の間に作成した俳句の中より自分の好きな句を書き

展示し、多くの方からご好評をいただくことができました。最終日に開催した記念句会の優秀作品を紹介します。

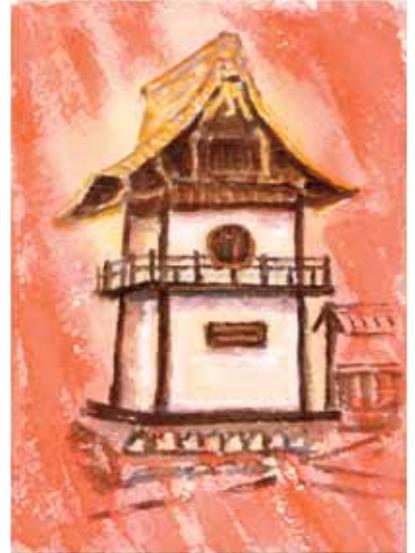
天	疎遠なる外孫に送るお年玉	足立卯月
地	福寿草祝い一色晴れ着の娘	尾関邦子
人	ちび三人おもちゃで貰うお年玉	河合晴子
高点	ながらえて孫に頂くお年玉	扇野峯子



尾西仏手柑句会30周年記念

【問合せ先】足立 句公 ☎62-3921

文化情報



「鐘楼」

福井 恒男

《市および市内公共施設の催し予定》

一宮市博物館

☎(46)3215

企画展「一宮美術作家協会展」

日時 3月14日(土)～22日(日)

午前9時30分～午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜休館、以下同じ)

内容 一宮美術作家協会(会員)による最新の発想でイメージの試作を展開した日本画、洋画、彫刻・立体、デザイン

・工芸の力作を展示します。

観覧料 一般 200円

高年生 100円

※市内小中学生・65歳以上無料(以下同じ)

企画展「一宮写真協会選抜写真展」

日時 3月25日(水)～31日(火)

内容 感性に裏打ちされた表現力で、熱い思いを込めた作品を展示します。

企画展「合併10周年

「いちのみやのあゆみ」

日時 4月25日(土)～5月31日(日)

午前9時30分～午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜休館、4月30日(木)・5

月7日(木)休館、5月4日(祝

は開館)

内容 2市1町の誕生より今日に至るまでの資料や写真を展示し、これまでの当市の歩みを紹介いたします。

三岸節子記念美術館

☎(63)2892

美術館講座「美術の学校8」

日時 ①3月21日(土)②28日(土)

午後2時～3時30分(開場

は30分前)

内容 様々な視点から楽しく、わかりやすい講演会を開催します。

①日本画はどこから来たのか②モネ、ドガ等の

印象派の作品とジャポニズ

ム

講師 ①北田克己氏(日本美術院

同人)②江本菜穂子氏(名古屋

屋造形大学教授)

会場 1階講義室

定員 各100名※授業料無料

常設展「三岸節子 花とともに」

日時 4月7日(火)～7月12日(日)

午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜休館、4月30日(木)・5

月7日(木)休館、5月4日(祝

は開館)

内容 70年以上におよぶ画業の中で、生涯のテーマとした「花」の作品を展示します。

観覧料 一般 320円

高年生 210円

小中生 110円

※市内小中生・65歳以上無料

尾西歴史民俗資料館

☎(62)9711

「第16回懐かしの

SUPERレコードコンサート」

日時 3月21日(祝)

午後1時30分～3時30分

内容 蓄音機でSUPERレコードの名

曲を鑑賞します。

入場料 無料

特別展「一宮郷土史編纂の歩み」

日時 4月25日(土)～5月31日(日)

午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜休館、4月30日(木)・5

月7日(木)休館、5月4日(祝

は開館)

内容 一宮市の郷土史編纂の歩みを紹介いたします。

観覧料 無料

歴史講座「美濃路探訪

春〜尾張編

日時 5月24日(日)

午前9時〜午後5時

内容 江戸時代の主要な街道であつた美濃路について、歴史と現在の様子を現地学習で学びます。

定員 35名

※要参加費・要申込み(詳しくは4月号広報を参照)

歴史講座「古文書で読む

日本の大事件」前期

日時 5月31日(日)・6月7日(日)

午後1時30分〜3時

内容 市内に残された資料から、長州藩と幕府軍が衝突した「蛤御門の変」について学びます。

定員 30名

※要申込み(詳しくは4月号広報を参照)

中央図書館

(72)2343

展示「大正の広重

吉田初三郎鳥瞰図展

日時 6月2日(火)〜14日(日)

午前9時〜午後9時

内容 吉田初三郎の鳥瞰図を展示します。

会場 6階 多目的室2

観覧料 無料

市生涯学習課

(85)7075

「市民美術教室」

【写真】

日時 5月14日〜6月4日の毎週

木曜日、および5月17・24日の日曜日

【油絵】

日時 5月28日〜7月30日の毎週

木曜日(6月4日・7月9日は除く)

【日本画】

日時 6月3日〜7月29日の毎週

水曜日(7月8日は除く)

【書】

日時 6月4日〜7月30日の毎週

木曜日(7月9日は除く)

会場 一宮スポーツ文化センター 他

対象 市内在住・在勤・在学の方

※全コースとも、要受講料。また所定の締切日までに事前の申込が必要。なお日時は予定のため

変更する場合あり。詳しくは【写真】(4月号)・【その他のコース】(5月号)の広報を参照



「市民短歌教室」

【問合せ先 真清短歌会】

(72)7691

日時 3月8日(日)・4月12日(日)

6月14日(日) 午後1時〜

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 真清短歌会委員により実作指導します。(初心者歓迎)

参加料 無料

申込み 当日直接会場

「春の市民短歌吟行会」

日時 5月15日(金) 午前9時〜

行先 うだつの上がる町並み(岐阜県美濃市)他

対象 どなたでも

定員 35名(定員を超えた場合は抽選)

参加料 2,500円(昼食付き)

申込み 4月20日(月)までに事務局

(85)7075へ連絡。

「狂俳月例会」

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

(51)2286

日時 3月14日(土)・4月11日(土)

5月9日(土)・6月13日(土)

午後1時〜

会場 葉栗公民館

内容 各自10句持参、互選により優秀作を記録に残します。(初心者歓迎)

参加料 無料

「市民俳句教室」

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

(73)5504

日時 3月22日(日)・4月26日(日)

5月24日(日)・6月28日(日)

午後1時〜

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 当季雑詠3句を一宮市民俳句教室委員が指導します。(初心者歓迎)

参加料 無料

申込み▼当日直接会場

『春の市民俳句吟行会』

日時▼5月19日(火) 午前9時〜

行先▼湖東三山(滋賀県湖東地方)
他

対象▼どなたでも

定員▼37名(定員を超えた場合は
抽選)

参加料▼3,000円(昼食付き)

申込み▼4月24日(金)までに事務局
(☎85-7075)へ連絡

『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】

☎(45)6951

日時▼3月22日(日)・4月26日(日)
5月24日(日)・6月28日(日)
午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼自由吟および課題吟を一宮
川柳社委員が指導します。
(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

『一宮市芸術文化活動振興交付金事業 『坂東流百の会10周年記念発表会』』

【問合せ先 坂東流百の会】

☎(61)28876

日時▼3月22日(日) 正午〜

(開場は30分前)

会場▼尾西グリーンプラザ

内容▼会の設立10周年の記念に、
会員が坂東流の舞を披露し
ます。

入場料▼無料

『石刀まつり』

【問合せ先 一宮民俗芸能連盟】

☎(73)5221

日程▼4月19日(日)
会場▼石刀神社(今伊勢町馬寄)
内容▼山車からくり・献馬

『春季謡曲大会』

【問合せ先 一宮謡曲同好会】

☎(62)0966

日時▼4月26日(日)午前9時30分〜

会場▼産業体育館

内容▼素謡、連吟、仕舞等の発表
入場料▼無料

『サロンコンサート 〜心やすらぐ名曲をあなたに〜』

【問合せ先 一宮音楽家協会】

☎(87)2827

日時▼5月17日(日) 午前11時〜
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼一宮音楽家協会会員による

演奏会

入場料▼無料

『こま希久会 第20回日本舞踊発表会』

【問合せ先 一宮舞踊協会】

☎(45)5498
日時▼5月31日(日) 午前11時〜
(開場は30分前)

会場▼一宮市民会館

内容▼日舞発表会
入場料▼無料

『2015 一宮総合美術展』

【問合せ先 生涯学習課】

☎(85)7057
日時▼6月4日(木)〜7日(日)
午前10時〜午後5時(7日
は午後4時30分まで)

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼加入団体から選抜された作
家の作品の日本画・洋画・
彫刻立体・工芸・デザイン
・書・写真の作品を展示し
ます。

入場料▼無料

入場料▼無料

『加入団体の催し』欄に情報を 掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体の活動情報を募集します。
掲載を希望される団体は、発行月3・6・9・12月の前々月15日までに、
下記の必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

必要事項

①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時 ⑤会場
⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他必要事項

提出先

〒491-8501 一宮市芸術文化協会事務局(住所不要)
または FAX 0586-73-9213

この「いちのみやの芸術文化」は、
今年度の編集委員八名により、編集
されています。

【編集委員】 ※順不同・敬称略

浅井 英仁・木全 修
小島 祥子・小島 瑞月
後藤富士雄・坂井 斉
増田 和臣・柳原たづ子

[題 字] 武 山 翠 屋
[編集・発行] 一宮市芸術文化協会

[連絡先] 一宮市芸術文化協会事務局 (市教育委員会生涯学習課内)
〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号
TEL 0586-85-7075 / FAX 0586-73-9213